

IV ちょうふの里

第1 総括

1 安定した食事提供

平成30年度から調理業務が直営となり、安定して食事を提供できる体制づくりに取り組んだ。新たな体制となり、調理業務を軌道に乗せるため、年度当初は比較的調理しやすいメニューを取り入れ、安定した食事の提供を心掛けた。早い段階で調理業務を軌道に乗せることができ、徐々に利用者の要望に応える体制を整えることができた。年度後半には、調理の正規職員はシフト全体を掌握できるようにシフト交換を行った。これにより、パートタイム職員が欠けた場合に正規職員がフォローできる体制を整えた。一年を通して安定した食事を提供することができた。

2 人材確保と育成

近年、介護職及び看護職については定着しており、安定した組織運営ができています。介護職についてはここ数年、学校新卒者の採用に結びついており、養成校とよい関係が築けている。

職員の育成については、新たな職員が増えていることから、基本的な研修を中心に取り入れている。また、身体拘束廃止など新たに取り入れなければならない研修を取り入れるとともに、各課における状況の違いなども考慮し、各課研修にも力を入れた。

3 安心、安全のための施設整備

平成8年竣工以来、築20年以上経過し、設備においても老朽化が進んでいる。老朽化の度合いや重要性を見ながら、市と協議し、年度ごとに機器の更新を行った。なかでも、防災設備に関しては利用者の安全を確保するうえで、最も重要な設備であり、優先的に更新に取り組んだ。平成30年度においては、非常用放送設備及び非常用発電機の更新を行い、今回の更新により主だった消防設備の更新を終えることができた。

第2 経営実績

1 目標に対する実績

特別養護老人ホーム及び通所介護については、目標を達成することができた。ショートステイについては、要介護度の高い利用者の施設入所や入院が影響し、目標を達成することができなかった。居宅介護支援事業の予防プランについては、包括支援センターと併設していることで、依頼件数が多く、目標及び前年度実績を大幅に上回った。訪問介護については、登録ヘルパーの雇い入れが進まず、また、高齢により退職するヘルパーも多くサービス提供時間が減少した。

(単位：%)

事業名		目標値	平成30年度 実績	平成29年度 実績
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）利用率		96	96.0	95.2
短期入所生活介護（ショートステイ）利用率		97	84.9	85.7
通所介護 事業	通所介護 利用率	85.0	85.7	77.5
	認知症対応型通所介護 利用率	80.0	70.0	73.3
居宅介護 支援事業	ケアプラン作成数（月）	141件	117.4件	114.9件
	予防プラン作成数（月）	10件	31.3件	9.8件
訪問介護 事業	サービス提供数（時間/月）	610時間	386.3時間	461.6時間
	障がいサービス提供数（時間/月）	70時間	42.1時間	44.0時間

第3 課別事業報告

1 管理課

(1) 重点事項への取組

ア 食事サービスの安定的提供

平成30年度から調理業務が直営となり、年度当初は手の込んだメニューを避け、安定して食事を提供できる体制を組んだ。年間を通じて徐々に手作りの度合いを上げていくように設定していたが、当初予測していたより早くステップアップすることができた。年度後半では、手作りケーキを提供することができ、おやつも含め、工夫を凝らした調理を提供できた。調理及び栄養士と円滑な連携により、予想以上に早く軌道に乗せることができた。

イ 防災設備の更新

平成30年度においては、非常用放送設備及び非常用発電機の更新を行った。非常用放送設備については、更新以前に時折ノイズ等により聞き取りづらかった部分が解消され、伝達事項が明確に伝わるようになった。非常用発電機については、災害時に最低限の電気設備を稼働させるための電気容量を確保し、業務を継続させるため、実際にテスト運転を行い、必要な電力の確保を確認することができた。

ウ 周辺施設における国際イベントへの対応

周辺施設において、2019年ラグビーワールドカップ、2020年オリンピック・パラリンピックが開催される。世界的なイベントを間近で体感できる良い機会であるが、国際的イベントあるため警備や交通規制など通常業務に影響がでることも想定され、周辺施設、市、実行委員会及び警察などの関係機関と意見交換会を開催した。第1回目を5月30日に開催し、その後、第2回意見交換会、ラグビーワールドカップ説明会を1回、自転車ロードレ

ース説明会を2回開催した。主な内容として、交通規制の内容及び時間、多数来客者による影響などを中心に意見交換を行った。意見交換会を開催したことで、市や各実行委員会から積極的な情報提供が行われるようになった。

(2) 実績報告

ア 体系別研修

体系別の研修状況は、次のとおりである。

なお、内容欄の数字は「イ 研修の状況」の「No.」を表している。

体 系		内 容	回 数
一般研修	新任職員研修		—
	現任職員研修	8, 9, 14	3
	中堅・副主任研修	26, 27, 31, 42, 49	5
専門研修	看護師研修	29, 44	2
	栄養士研修	3, 6, 12, 13, 16, 19, 20, 21, 28, 32, 43, 45	12
	介護職員研修	5, 7, 11, 17, 22, 24, 25, 33, 34, 35, 38, 40, 47, 48, 50, 51	16
	介護支援専門員研修	23, 39	2
	生活相談員研修	1, 2, 10, 18, 37	5
	機能訓練指導員研修	4	1
	主任研修	41	1
	課長研修	15, 30, 36, 46	4
職場研修	施設内研修	① 「判例から見るリスクマネジメント」 (講師 宮本日本橋法律事務所 宮本 寛之氏) 5月24日(木) 参加者 57人 ② 「虐待防止について」 (講師 地域支援課職員) 6月20日(水) 参加者 57人 ③ 「身体拘束の廃止について」 (講師 福祉課職員) 8月22日(水) 参加者 59人 ④ 第1回「パワハラ研修」 (DVD鑑賞) 9月21日(金) 参加者 31人 ⑤ 第2回「パワハラ研修」 (DVD鑑賞) 9月25日(火) 参加者 47人 ⑥ 「知っておきたい応急処置～止血法など～」 (講師 各課看護職員) 11月28日(水) 参加者 39人 ⑦ 「褥瘡予防について～講義と実技～」 (講師 フランスベッド㈱) 12月12日(水) 参加者 44人	10

体 系	内 容	回 数
	⑧ 「感染症の基礎について」 (講師 イシイ(株)) 1月16日(水) 参加者 44人 ⑨ 第1回「腰痛予防について」 (講師 理学療法士 原 正浩氏) 3月25日(月) 参加者 36人 ⑩ 第2回「腰痛予防について」 (講師 理学療法士 原 正浩氏) 3月29日(金) 参加者 28人	
福祉課内研修、勉強会	① 「皮膚トラブル予防と配慮ある排泄ケア」 6月28日(木) 参加者 10人 ② 「認知症利用者のケアについて・事例検討」 9月 3日(月) 参加者 14人 ③ 感染症予防について (同内容で12回実施) 10月1日～11月5日 参加者 56人 ④ 「拘縮予防・改善を実現するポジショニング&ケア」 3月25日(月) 参加者 18人	15
ショート研修、勉強会(ショートステイ担当内研修)	① 眠剤・血糖降下剤について 7月19日(木) 参加者 13人 ② 血糖リスクマネジメントについて 9月 7日(金) 参加者 6人 ③ 身体拘束について 9月20日(金) 参加者 12人 ④ 感染症対策・処理方法について 11月 9日(金) 参加者 9人 12月 3日(月) 参加者 2人 ⑤ リスクマネジメントについて 2月15日(金) 参加者 8人	6
デイサービス研修、勉強会(デイサービス担当内研修)	① 車両誘導研修 6月29日(金) 参加者 22人 ② 在宅介護の現場における無自覚な虐待について 7月20日(金) 参加者 21人 ③ 介護職に必要な高齢者の方への医療的知識 8月24日(金) 参加者 25人 ④ 感染症予防と対策について (利用者の嘔吐物の処理方法、 風疹について知ってほしいこと)	5

体 系		内 容	回 数
		11月16日(金) 参加者 25人 ⑤ 身体拘束について 2月22日(金) 参加者 22人	
	地域支援課：訪問介護事業所研修、勉強会	① 記録のあり方・上手な書き方 7月18日(水) 参加者 9人 ② 車いす操作講習(段差・スロープ) 10月17日(水) 参加者 12人 ③ 記録のあり方・上手な書き方 11月21日(水) 参加者 12人 ④ 正しい手の洗い方 12月19日(水) 参加者 8人 ⑤ トランス介助・移乗介助演習 2月20日(水) 参加者 11人	5
		職場研修参加者合計	757人
			41回
外部研修参加及び施設内研修開催合計			92回

イ 研修の状況

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
1	4月20日	デイサービスを考える研究会(第1回)	東京都社会福祉協議会	1	1
2	5月11日	デイサービスを考える研究会(第2回)	東京都社会福祉協議会	1	1
3	5月17日	平成30年度栄養管理講習会(第1回) 高齢者施設の栄養管理・栄養管理報告書の記入方法他	東京都多摩府中保健所	1	1
4	5月24日	介護報酬改定状況に見る機能訓練指導員の役割	東京都社会福祉協議会	1	1
5	5月27日	介護職に必要な高齢者の方への医療知識セミナー	日本通所ケア研究会	1	1
6	5月31日・ 6月14日	平成30年度健康づくり調理師研修会	東京都多摩府中保健所	2	2
7	6月9日	日本ケアレク研究大会2018	日本通所ケア研究会	1	1
8	6月14・15日	全国共通・キャリアパス対応生涯研修課程《福祉職員 職務階層別研修》平成30年度 初任者研修	東京都福祉人材センター	1	2
9	6月26・27日	全国共通・キャリアパス対応生涯研修課程《福祉職員 職務階層別研修》平成30年度 初任者研修	東京都福祉人材センター	1	2

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
10	6月15日	デイサービスを考える研究会（第3回）	東京都社会福祉協議会	1	1
11	6月29日	認知症に関する研修会～体験から基礎を学ぶ～	東京都社会福祉協議会	1	1
12	7月2日	平成30年度 摂食嚥下機能支援整備 摂食嚥下機能支援研修会（歯科）	東京都多摩府中保健所	1	1
13	7月3日	多摩府中給食施設協議会見学会	多摩府中給食施設協議会	1	1
14	7月4・5日	全国共通・キャリアパス対応生涯研修課程《福祉職員職務階層別研修》 平成30年度 初任者研修	東京都福祉人材センター	1	2
15	7月6日	社会福祉施設でボランティアを受け入れるための募集のステップと継続のコツ	東京ボランティアセンター・市民活動センター	1	1
16	7月6日	平成30年度栄養管理講習会（第3回） 高齢者の摂食・嚥下機能	東京都多摩府中保健所	1	1
17	7月11日	在宅介護の現場における無自覚な虐待～始まりは不適切ケア～	東京都介護保険居宅事業者連絡会	1	1
18	7月13日	デイサービスを考える研究会（第4回）	東京都社会福祉協議会	1	1
19	7月18日	災害時における食事提供～震災の体験から学んだ災害時の対応～	東京都社会福祉協議会	1	1
20	7月25日	平成30年度栄養管理講習会 第5回CKD（慢性腎臓病）の栄養相談～個人の理解度に合わせた情報提供のコツ～	東京都多摩府中保健所	1	1
21	8月22日	高齢者の食支援に関する研修会 ～実は恐ろしい！知らないでは済まされない、食支援に求められる知識や技術～	東京都社会福祉協議会	1	1
22	8月23・24日	平成30年度 第9・10・11・12回 東京都認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	2	2
23	9月4日	ケアマネジメント質の向上研修会	東京都福祉保健局	1	1
24	9月6日	みるみる改善！筋萎縮を減少するコツを伝授！ 拘縮予防・改善を実現するポジショニング&ケア	日 総 研 出 版	3	3
25	9月12日	平成30年度 福祉車両安全運転講習会	日本福祉車両協会	1	1
26	9月19日	平成30年度 第2回 介護福祉士実習指導者講習会	東京都介護福祉士会	1	4
27	9月20・21日	全国共通・キャリアパス対応生涯研修課程《福祉職員職務階層別研修》 平成30年度 中堅職員研修	東京都社会福祉協議会	1	2

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
28	9月27日	平成30年度 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック摂食嚥下研修会(第3報)	日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック	1	1
29	10月4日	褥瘡の予防とケア	東京都ナースプラザ	1	1
30	10月16日	平成30年度東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修	東京都福祉保健局	1	1
31	10月16・17日	全国共通・キャリアパス対応生涯研修課程《福祉職員職務階層別研修》 平成30年度 中堅職員研修	東京都社会福祉協議会	1	2
32	10月18日	東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会北南ブロック会 栄養士会	東京都社会福祉協議会	1	1
33	10月23日	虐待の芽に対応するチーム力 ～不適切な支援を虐待に発展させないために～	東京都社会福祉協議会	1	1
34	11月1日	移乗介助に関する研修会 ～場面に応じた重度者へのトランス方法を学ぶ～	東京都社会福祉協議会	2	2
35	11月5日	平成30年度 介護職員スキルアップ研修～医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ～	東京都社会福祉協議会	1	3
36	11月19日	結核予防講演会	東京都結核予防会	1	1
37	11月20日	平成30年度「ショートステイ情報交換会」	東京都社会福祉協議会	1	1
38	11月20・21日	第75回 全国老人福祉施設大会 北九州大会	全国老人福祉施設協議会	2	4
39	11月21日	利用者のニーズを考える研修会 ～アセスメントからニーズを抽出する方法～	東京都社会福祉協議会	1	1
40	11月25日	[ユニリハ]New介護の現場でリハビリ効果を出すための勉強会 基礎編・実技編	日本ユニバーサルリハビリテーション協会	1	1
41	11月30日	介護報酬請求事務に関する研修会(応用編)	東京都社会福祉協議会	1	1
42	12月11・12日	平成30年度 「中堅職員重点テーマ強化研修」	東京都社会福祉協議会	1	2
43	12月13日	高齢者における口腔機能維持をめざして～オーラルフレイルと口腔機能低下症～	東京都多摩府中保健所	1	1
44	1月20日	医療的ケア教員講習会	ホットラインワールド	2	2
45	1月22日	食品衛生実務講習会	東京都多摩府中保健所	1	1

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
46	2月1日	家族からのヘビークレームへの対抗策 ～限度を超えた家族要求から職員を守るには～	東京都社会福祉協議会	1	1
47	2月20・21日	平成30年度 第17・18・19・20回 東京都認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	2	2
48	2月26日	「パターン化しない認知症ケアのヒント」 ～見直しませんかあなたの認知症ケア～	東京都社会福祉協議会	2	2
49	2月26・28日	平成30年度 スーパービジョン研修 社会福祉の 専門家としての職員の成長を支える～人と職場の育 ち方 解決志向アプローチを活用して～	東京都福祉人材センタ ー研修室	2	2
50	2月27日	「高齢者福祉施設における接遇・マナーを学ぶ研修会 ～コミュニケーションのあり方から考える～」	東京都社会福祉協議会	1	1
51	3月10日	実践！認知症ケア研修会 2019	日本通所ケア研究会	1	1
研修参加実人数合計61人、延べ参加人数合計74人					

ウ 実習生等の受入状況

受け入れの延べ人数は、255人と昨年度の355人より減少した。例年、受け入れを行っている介護福祉士及び社会福祉士の専門学校、1校ずつ申込みがなかったことが大きく影響している。

(単位：人)

学 校 名 等	実 習 目 的	実 習 先			合 計
		特養	デイ・シ	包・居・訪	
都立野津田高等学校	介護福祉士	40			40
公益財団法人東京YMCA医療福祉専門学校	介護福祉士	30			30
学校法人日本福祉大学	社会福祉士	8	12	4	24
調布市高齢者支援室	社会福祉士	3	9		12
都立多摩職業能力開発センター府中校	介護職員新任者研修	10	10		20
調布市福祉人材育成センター	介護職員新任者研修			4	4
杏林大学保健学部看護学科	公衆衛生			4	4
杏林大学医学部付属看護専門学校	在宅看護			4	4
学校法人慈恵大学慈恵第三看護専門学校	在宅看護			2	2
三菱東京UFJ銀行	ボランティア体験		8		8
東京都社会福祉協議会(教員免許取得)	介護等体験		20		20
京王バス株式会社	介護等体験		28		28

学校名等	実習目的	実習先			合計
		特養	デイ・シ	包・居・訪	
東京都福祉保健財団	介護支援専門員実務研修			12	12
財団法人上野学園大学短期大学部	介護等体験		14		14
調布市立調布中学校	職場体験		10		10
調布市立第六中学校	職場体験		15		15
東京都社会福祉協議会	職場体験	5	3		8
合計		96	129	30	255

※デイ・シ＝デイサービス及びショートステイ 包＝地域包括支援センター
訪＝訪問介護事業所 居＝居宅介護支援事業所

エ ボランティア等の状況

ボランティアの活動総数は、延べ1,465人となった。恒例となったボランティア懇親会については、「武蔵野の森総合スポーツプラザ」の見学会を11月8日に実施し、ボランティア13人、職員13人の参加があった。

(単位：人)

活動団体・内容等		活動先			合計
		特養	デイ・ショート	施設全体	
クラブ・技術指導	書道	24	119		143
	詩吟	35			35
	編み物		137		137
	音楽リハビリ	24	94		118
	籐細工		50		50
	絵手紙		63		63
	陶芸		114		114
	小計	83	577		660
生活全般	リネン類整理	368			368
諸活動	傾聴	27			27
	朗読	12			12
	マッサージ	4			4
	ドッグセラピー	18	62		80
	紙芝居	33			33
	活動支援(活動の準備等)		75		75

活動団体・内容等	活動先			合計
	特 養	デイ・ショート	施設全体	
新 年 会	3	21		24
バ ス ハ イ ク		14		14
音 楽 会	7	30		37
サマーボランティア	2	2	1	5
ふ う り ん 祭 り			73	73
施 設 周 り 清 掃			24	24
ホ ー ム 喫 茶			26	26
福 祉 祭 り		3		3
小 計	106	207	124	437
合 計	557	784	124	1,465

※1・ふうりん祭りは、警察学校の43人(2交代)、警視庁第七機動隊10人を含む。

- ・ 上記のボランティアの他に、イベント(調布中学生の和太鼓・タヒチアンダンス)の協力があった。
- ・ 「サマーボランティア」で、ふうりん祭りの手伝いをした者が2人あり、サマーボランティアとして数えた。

※2 老人クラブ「富士見天寿会」による「施設周り清掃」は、年2回定例の清掃活動として実施された。

※3 「ふじみ手芸とおしゃべりサロン」は継続し、特注で食用エプロン等の製作に対応していただいている。活動場所が地域センターのため、正確な活動人数の把握が難しく、上記の表にカウントしていない。

オ 特別養護老人ホーム 利用食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	2,860	2,861	2,862	10	2,924	2,925	2,925
5	2,936	2,937	2,935	11	2,827	2,827	2,828
6	2,841	2,843	2,841	12	2,929	2,928	2,929
7	2,931	2,936	2,935	1	2,911	2,912	2,914
8	2,994	2,994	2,992	2	2,663	2,668	2,668
9	2,803	2,804	2,804	3	3,010	3,014	3,013
				合計	34,629	34,649	34,646
				1日平均	94.9	94.9	94.9

カ 単独型短期入所生活介護 利用食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	446	360	446	10	483	401	483
5	416	333	412	11	458	384	457
6	376	312	379	12	464	377	465
7	474	400	475	1	420	348	421
8	514	429	512	2	377	311	372
9	480	401	479	3	392	318	394
				合計	5,300	4,374	5,295
				1日平均	14.5	12.0	14.5

キ 行事食献立一覧 (特=特養、シ=ショートステイ、デ=デイサービス)

月日	行事名	課名	献立内容
4月8日	花祭り献立	特・シ・デ	桜寿司、天ぷら、菜の花のお浸し、うどと人参の炒め、果物、おやつ(まんじゅう)
27日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
5月5日	端午の節句膳	特・シ・デ	ちらし寿司、天ぷら、若竹煮、おすまし、果物、(おやつ:上生菓子(こいのぼり))
8日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、練り切り、サドイチ、コーヒー、抹茶、クリームソーダ、オレンジジュース
13日	母の日献立	特・シ	3色ご飯、南瓜サラダ、ほうれん草のスープ、苺のホイップ添え
25日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
6月22日	選択メニュー	特・シ	うな井又は冷やし中華から利用者が選択
29日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
7月7日	七夕献立	特・シ・デ	七夕そうめん、天ぷら、冬瓜のかにあん、果物、(おやつ:やわらか和菓子)
13日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、練り切り、コックパソ、コーヒー、冷抹茶、パインジュース、トロピカルティー
20日	土用の丑	特・シ・デ	うな井、おすまし、果物
22日	ふうりん祭り	特・シ・デ	模擬店(やきそば・コロッケ・たこ焼き・水羊羹)
27日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
8月3日	選択メニュー	特・シ	天井またはジャージャー麺から利用者が選択
15日	終戦記念日	特・シ・デ	すいとん
31日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)

月 日	行 事 名	課 名	献 立 内 容
9月13.14.15日	敬老祝い膳	デ	赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし(松花堂弁当) 間食 ねりきり
16日	敬老祝い膳	特・シ	赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし(松花堂弁当) 間食 祝まんじゅう
21日	お彼岸	特・シ・デ	おはぎバイキング(やわらかおはぎ・あん・ごま・きなこ)
24日	十五夜献立	特・シ・デ 特・シ・デ	月見うどん 間食 月見まんじゅう
28日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
10月5日	選択メニュー	特・シ	牛丼またはほうとうから利用者が選択
12日	秋の味覚バイキング	特・シ	松茸ごはん、土瓶蒸し風、さつま汁、柿
26日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
11月5～7日	運動会お弁当	デ	いなりずし、から揚げ、厚焼き玉子、漬物、けんちん汁
9日	選択メニュー	特・シ	海鮮丼または鍋焼きうどんから利用者が選択
12日	ホーム喫茶	特・シ・デ	モンブラン、ムース、どらやき、醤油ラーメン、コーヒー、抹茶、 ぶどうジュース、ココア
23日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
30日	新米バイキング	特・シ	握り寿司、いなり、おにぎり3種、炊き込みご飯等
12月20日	クリスマス会	特	間食にクリスマスケーキとシャンメリー
21日	冬至メニュー	特	間食にゆずまんじゅう
22日	冬至メニュー	特・シ シ・デ	夕食に南瓜のいとし煮 間食にゆずまんじゅう
23日	クリスマス会	シ	間食にクリスマスケーキとシャンメリー
25日	クリスマスメニュー	特・シ・デ デ	(昼) 鶏肉の香草焼き、(夕) ミートローフ 間食にクリスマスケーキとシャンメリー
28日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
31日	年越し	特・シ	年越しそば(海老天そば)
1月1日	元旦	特・シ	おせち料理、雑煮、(おやつ:ねりきり・甘酒)
6日	新年会	特	新年会献立 昼食 散らし寿司、天ぷら、和え物、果物
7日	七草	特・シ	七草粥
9日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、練りきり、たこやき、コーヒー、抹茶、甘酒、カ ルピス
11日	鏡開き	特・シ・デ	おしるこ
25日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
2月3日	節分献立	特・シ・デ	(おやつ):練りきり「鬼」、(夕):いわしの幽庵焼き、恵方巻き といなり寿司

月 日	行 事 名	課 名	献 立 内 容
22 日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
3月3日	ひな祭り献立	特・シ・デ	ちらし寿司、刺身、高野豆腐の煮物、菜の花浸し、果物
7 日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、煉り切り、醤油ナ、コーヒー、抹茶、いちごオーレ、ホットナガ
20 日	お彼岸	特・シ・デ	ぼたもちバイキング(やわらかぼたもち・あん・ごま・きなこ)
29 日	お誕生日ケーキの日	特・シ・デ	バイキング形式(ケーキ2種)

※ 朝食は、「ごはん食」か「パン食」の選択メニューを毎日行っている。

2 福祉課

(1) 重点事項への取組

ア 利用者の尊厳の尊重

ケアプランの説明では、よりわかりやすい言葉の使用を心がけて利用者家族との共通理解を深め、利用者の思いを尊重した支援に繋げることができた。

利用者の重度化や疾病の多様化に伴う心身状態の変化に応じ、ケアプランの見直しをすすめ、利用者家族とのカンファレンスを積極的に行った。

イ 利用者支援の充実

外出活動は利用者の心身の状況を考慮し、屋内施設や近郊を中心とした場所となった。季節行事やレクリエーションも、利用者とおやつ作り、音楽会、ドッグセラピー等、気分転換や意欲向上が図れる活動を行った。

スライディングシートや移乗ボードを積極的に導入し、利用者には安心と安全を、職員には身体的な負担の軽減に繋げることができた。

感染症予防対策や早期発見と対応に取り組み、今年大流行したインフルエンザについても、極少数の罹患で食い止めることができた。利用者の生活空間には次亜塩素水の加湿器の設置し、日々の健康管理及び環境整備にも取り組んだ。

ウ 職員・人材育成の充実

職員個々の職能にあわせた階層別研修や、職種別の研修などの外部研修へ多くの職員が積極的に参加した。研修内容は発表の場を設けることで職場に還元し、知識及び技術向上に努めた。

ソーシャルワークやケアワークに関する実習はもとより、就労支援事業の体験実習も引き続き受入れ、教えることで自己研鑽を図るよい機会となった。

また、福祉職場サポート業務研修の体験施設として登録し、福祉に関心のある人材への様々な働きかけを行うことができた。

エ 利用者家族との連携

利用者の心身の状況や生活の様子について、情報共有が図れるよう利用者家族とのカンファレンスを積極的に開催した。

また、面会時の説明や電話での連絡も行いながら、利用者家族との共通理解を深め、「今できること」の共有を図ることができた。

利用者の高齢化、重度化が一層進む中、4人の利用者の看取りを行った。家族と職員が共に利用者に寄り添い、嘱託医師の協力のもと、看護師、介護職員等が共同し、取り組むことができた。

平成30年度介護保険制度改正については、家族会の際に変更点をわかりやすく説明するのと併せ、面会など際には個別に説明し、必要な手続きを円滑に進めることができた。

(2) 実績報告（特別養護老人ホーム：利用定員100人）

ア 年齢別利用者状況

80歳未満が4.9ポイント上昇、90歳以上から95歳未満が4.5ポイント下降した。合計の平均年齢は0.6歳若くなった。

平成31年3月31日現在（単位：人）

No.	年 齢 別	男	女	合計	構成比(%)
1	65歳未満	0	0	0	0.0
2	65歳以上 70歳未満	0	0	0	0.0
3	70歳以上 75歳未満	1	4	5	5.1
4	75歳以上 80歳未満	4	8	12	12.1
5	80歳以上 85歳未満	8	10	18	18.2
6	85歳以上 90歳未満	7	19	26	26.3
7	90歳以上 95歳未満	2	21	23	23.2
8	95歳以上100歳未満	0	12	12	12.1
9	100歳以上	0	3	3	3.0
合計		22	77	99	100.0
最 高 年 齢 (歳)		91	106	—	—
最 低 年 齢 (歳)		73	72	—	—
平 均 年 齢 (歳)		82.9	88.3	87.1	—

イ 在籍期間

平均在籍期間は4年0か月と0.1ヶ月低下した。在籍期間1年未満の利用者の割合が計4.9ポイント上昇したことがその要因となっている。

平成31年3月31日現在（単位：人）

No.	期 間	男	女	合計	構成比(%)
1	1 年 未 満	4	20	24	24.3
2	1～2年未満	4	9	13	13.1

No.	期 間	男	女	合計	構成比(%)
3	2～5年未満	9	23	32	32.3
4	5～10年未満	4	17	21	21.2
5	10年以上	1	8	9	9.1
合計		22	77	99	100.0
平均在籍期間		3年7か月	4年2か月	4年0か月	—

ウ 退所状況

入院先での死亡や施設内での永眠をあわせ、死亡退所が全体の6割に近く、年間での退所者は22人と昨年度より1人増加した。退所者の平均年齢は80.7ポイント、平均介護度も0.3ポイントそれぞれ上昇した。

No.	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1	女	90	5月	調布市	長期入院加療	6か月	3
2	女	92	5月	府中市	施設内で永眠	3年7か月	5
3	女	77	5月	調布市	長期入院加療	7年3か月	5
4	男	80	6月	府中市	入院先で死亡	5か月	4
5	女	100	6月	三鷹市	施設内で永眠	4年8か月	5
6	女	79	7月	調布市	入院先で死亡	3年7か月	5
7	女	88	8月	府中市	施設内で永眠	10年9か月	5
8	男	79	9月	府中市	長期入院加療	9年3か月	5
9	男	90	9月	調布市	入院先で死亡	5年1か月	4
10	女	84	10月	三鷹市	長期入院加療	5年4か月	5
11	男	89	10月	調布市	長期入院加療	6年6か月	5
12	女	94	11月	三鷹市	長期入院加療	3年4か月	5
13	女	92	11月	三鷹市	入院先で死亡	4年6か月	4
14	女	92	11月	調布市	入院先で死亡	1年7か月	5
15	女	94	11月	調布市	入院先で死亡	1年4か月	4
16	女	94	12月	府中市	長期入院加療	4年4か月	5
17	男	88	12月	調布市	長期入院加療	1年5か月	4
18	男	84	1月	調布市	入院先で死亡	3年5か月	4
19	女	76	1月	調布市	長期入院加療	1年3か月	4
20	女	91	2月	調布市	入院先で死亡	5年7か月	5
21	女	93	2月	調布市	施設内で永眠	3年7か月	5
22	女	98	3月	調布市	入院先で死亡	8年1か月	5
平均		88.4	—	—	—	4年5か月	4.6

エ 月別要介護度分布表

要介護4以上の利用者が約80%以上を占め、要介護5の利用者の割合が1.9ポイント上昇したが、平均要介護度は4.3と昨年度と同じであった。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
4	0	4	13	33	49	4.3
5	0	4	12	35	49	4.3
6	0	4	12	35	46	4.3
7	0	4	12	35	48	4.3
8	0	4	11	36	48	4.3
9	0	4	11	35	49	4.3
10	0	4	11	38	46	4.3
11	0	4	10	39	44	4.3
12	0	4	9	39	46	4.3
1	0	4	9	38	47	4.3
2	0	5	9	37	48	4.3
3	0	6	9	36	49	4.2
構成比 (%)	0.0	4.3	10.8	36.2	48.1	4.3

オ 月別利用実績

年間を通じ、利用率が大きく落ち込んだ月が少なく安定しており、目標値の96.0%を達成することができた。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	2,886	3,000	96.2
5	2,975	3,100	96.0
6	2,874	3,000	95.8
7	2,969	3,100	95.8
8	3,023	3,100	97.5
9	2,847	3,000	94.9
10	2,973	3,100	95.9
11	2,855	3,000	95.2
12	2,962	3,100	95.5
1	2,960	3,100	95.5

2	2, 6 8 1	2, 8 0 0	9 5 . 8
3	3, 0 3 9	3, 1 0 0	9 8 . 0
合計	3 5, 0 4 4	3 6, 5 0 0	—
平均	2, 9 2 0	3, 0 4 2	9 6 . 0

3 高齢者在宅サービスセンター通所部門

(1) 重点事項への取組

ア 活動内容の充実

書道、陶芸、籐細工など6種類の趣味活動や音楽療法、理学療法士によるリハビリの固定プログラムに加えて、バスハイクやお花見など季節を感じることができる外出プログラムも行った。

また、他事業所で対応が困難という理由から利用を断られた認知症状のある5人の受入れを行った結果、継続利用に繋げることができた。

イ 家族連携の強化

家族同伴のバスハイクを2回実施し、家族と一緒に介護に関わることで、見えてきた課題や問題点を一緒に考えるようにした。また、利用中の小さな変化も家族に報告するようにし、情報の共通認識に努めた。

ウ 在宅生活の継続への支援

在宅介護の疑問や悩みなどを話し合う家族会の「絆の会」を活用し、家族だけで悩むことのないように働きかけ、在宅生活の継続を一緒に考えた。また、必要があれば家庭訪問し、問題解決に努めた。

エ 安心・安全の配食と安否確認の実施

配食サービスでは、アレルギーや感染症に十分注意し、利用者の体調不良による急な食種変更等にも迅速に対応した。また、配達時に安否が確認できない場合は、確認できるまで追跡を行い、不明のままのケースは1件もなかった。

その他、配達時に転倒やベッドからの転落などで動けなくなっていたケースが5件あり、うち1件が救急車により病院に搬送されたが、早期発見のため大事には至らなかった。

オ 介護保険制度改正への対応

介護保険制度の改定に伴い、4月15日に全体家族会を開催し、変更点などの説明を行った。また、一番大きな変更点でもある利用時間の細分化については、事前に利用者・家族に対しアンケート調査を実施した結果、現状の利用時間を希望する意見が多かったことから変更は行わなかった。そのため、収支アップと機能訓練のさらなる充実を図るため、9月から機能訓練加算Ⅰを取得した。

(2) 実績報告

ア 通所介護利用実績（一日の利用定員40人）

年間利用率は昨年度の77.5%から85.7%と8.2ポイント向上した。要因としては、見学時の送迎サービスが市内のケアマネジャーに浸透し、多くの方の見学依頼に対応できたこと、入院し欠席している利用者のみならず、入院中の新規希望の方からの相談に応じ、看護師、生活相談員が病院に足を運び、退院後すぐの利用が可能になるよう調整したこと、機能訓練加算Ⅰの取得要件にある居宅訪問を丁寧に行い、在宅生活に密着した機能訓練を計画、実施し、機能維持ができたことで入院や長期欠席に繋がらなかったことも利用率が向上した要因として考えられる。

(単位：人)

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
4	788	1,568	244	25	78.8
5	864	1,719	249	27	80.0
6	872	1,733	256	26	83.8
7	873	1,734	264	26	83.9
8	911	1,814	285	27	84.4
9	876	1,743	269	25	87.6
10	931	1,851	298	27	86.2
11	928	1,849	309	26	89.2
12	862	1,700	284	24	89.8
1	834	1,665	282	24	86.9
2	847	1,693	276	24	88.2
3	931	1,857	306	26	89.5
合計	10,517	20,926	3,322	307	85.7
1日平均	34.3	68.2	10.8	—	—

イ 認知症対応型通所介護利用実績（一日の利用定員12人）

年間利用率は昨年度の73.3%から3.3ポイント減の70.0%となった。要因としては、認知症利用者の新規利用希望が少なかったこと、既存の利用者の要望に応じ、週4日、週5日の利用を進めたものの、ショートステイの利用、施設入所や死去で利用が終結すると定員が12人と少ない認知症対応型では利用率に大きく影響したことなどがあげられる。

また新規利用に繋がった15人の利用者のうち5人が認知症対応型ではない、ちょうふの里以外の通所介護の利用を断られた利用者であり、近年、他の通所介護の利用を断られた利用者がちょうふの里の認知症対応型に移

行するケースが増えている。

その他認知症の進行に伴い、ちょうふの里の通所介護から認知症対応型に移行した利用者は5人であった。

(単位：人)

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
4	194	386	109	25	64.7
5	209	402	114	27	64.5
6	211	404	109	26	67.6
7	212	391	102	26	67.9
8	205	410	98	27	63.3
9	194	387	94	25	64.7
10	210	420	101	27	64.8
11	211	422	100	26	67.6
12	225	450	97	24	78.1
1	197	393	89	24	68.4
2	243	486	107	24	84.4
3	263	525	109	26	84.3
合計	2,574	5,076	1,229	307	70.0
1日平均	8.4	16.5	4.0	—	—

ウ 介護保険外（調布市受託）事業利用実績

(ア) 通所入浴サービス

延べ利用者は、昨年度の70人に対し、72人と微増であった。虐待ケースの利用者が保護されたこと、新規利用者を1人導入したが、1回の利用で死去されてしまったことから利用率は伸び悩んだ。近年、通所入浴の新規利用ケースは、住居環境はもちろんのこと同居する家族の問題や医療的ニーズの高い利用者の導入が目立つようになってきている。

(イ) 配食サービス

昨年度30,869食に対し、26,477食と昨年度比で14%減少した。自立度の高い人は、調布市においても充実してきている民間の配食サービスが導入される傾向にある。その一方でちょうふの里の配食に新規導入される利用者は介護度が高く、見守りや介助、安否確認など何らかの配慮が必要な利用者が導入される傾向にある。こういった背景もあり、新規利用者が減少したことと体調面の問題で利用期間が短期間で終了するケースが多く、利用数が減少したと考えられる。

(単位：人)

月	通所入浴サービス (1日の定員8人)	配食サービス (1日の食数、昼夕食計200食)
4	5	2,562
5	5	2,427
6	7	2,287
7	8	2,277
8	6	2,284
9	9	2,095
10	9	2,116
11	6	2,106
12	5	2,118
1	6	2,103
2	5	1,946
3	6	2,126
合計	77	26,477
1日平均	0.2	72.5

エ 通所介護要介護分布表

総合事業対象者から要介護1までは、その時の状態で認定結果が変わりやすく、その都度、要介護度に変更される方が多かった。

また、大きく変化が見られたところでは、昨年度、比率が5.5%であった要介護4は今年度、9.1%と比率が上がった。これは、長年ちょうふの里を利用されている利用者の状態像の悪化があったことに起因している。

(単位：人)

月	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	4	68	87	274	199	79	67	10	788
5	5	73	105	326	200	83	67	5	864
6	4	72	93	344	192	97	65	5	872
7	5	64	95	340	194	95	80	0	873
8	3	69	111	358	190	91	83	6	911
9	4	72	107	328	188	95	75	7	876
10	5	68	114	355	214	81	85	9	931
11	2	63	111	355	200	81	107	9	928
12	4	55	116	323	181	88	88	7	862
1	2	54	114	331	167	79	80	7	834

月	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
2	3	56	106	351	160	94	77	0	847
3	3	49	122	397	178	100	82	0	931
合計	44	763	1,281	4,082	2,263	1,063	956	65	10,517
比率 (%)	0.4	7.3	12.2	38.8	21.5	10.1	9.1	0.6	—
1日平均	0.1	2.5	4.2	13.3	7.4	3.5	3.1	0.2	34.3

オ 認知症対応型通所介護要介護分布表

昨年、14%を占めた要介護1の方が今年度は10.3%と減少した。これは、認知症対応型通所介護利用実績でも分析したとおり、これまでの新規利用の受け入れは要介護1が最も多い傾向にあったが、今年度の新規利用者は他の通所介護の利用を断られた利用者としょうふの里の通所介護から移行した利用者が新規利用者の66%を占め、その利用者の介護度が高い傾向にあったことが大きく影響した。また昨年度、要介護5の利用者は16.2%であったが、今年度は13.8%と減少した。これは週5日利用されていた利用者が死去されたためである。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	30	64	20	63	17	194
5	0	0	34	46	42	74	13	209
6	0	0	34	46	39	64	28	211
7	0	0	24	49	46	52	41	212
8	0	0	18	55	46	58	28	205
9	0	0	15	58	52	45	24	194
10	0	0	23	61	56	43	27	210
11	0	0	18	54	68	42	29	211
12	0	0	28	43	86	36	32	225
1	0	0	25	35	74	28	35	197
2	0	0	8	54	88	57	36	243
3	0	0	8	52	95	63	45	263
合計	0	0	265	617	712	625	355	2,574
比率 (%)	0	0	10.3	24	27.7	24.3	13.8	—
1日平均	0	0	0.9	2.0	2.3	2.0	1.2	8.4

4 高齢者在宅サービスセンター短期入所部門

(1) 重点事項への取組

ア 個別ケアの充実と家族との信頼関係の構築

利用者家族が抱える日々の介護の悩みに対し、アドバイスをする個別介護相談を企画、実施した。家族からは排泄介助についての相談やこれからの在宅サービスの使い方についてなどの相談があり、その都度、介護と看護の視点から実技を交えアドバイスをを行った。

今年度も満足度調査を実施し、前年度に比べ回収率は少なかったが、ショートステイ利用後の利用者の様子を伺ったところ、40%の家族が変化を感じ、その多くは外で刺激を受けることで自宅に戻ってから言葉を発することが多くなったなど精神面、体調面において良い傾向が見られているとの回答であった。

リスクマネジメントでは、日々の職員間の情報交換や各居宅介護支援事業所からの情報をもとに利用者、家族の課題を抽出し、その方に適したサービスの取組に努めた。利用中に起きた事故については、速やかに家族連絡し、事故の詳細、ケガの有無、受診の可否等わかりやすく説明したうえで、謝罪と誠意ある対応に努めた。感染症対策では昨年のノロウイルス感染の反省をまとめ、一対応一手指消毒など日々の業務での注意点についてもあらためて話し合い確認をした。

イ 人材の育成

職員個々のスキルアップやチームケアの強化のため、7月19日(木)「眠剤・血糖降下剤について」、9月7日「血糖測定器の使用方法について」、9月20日(木)「身体拘束について」、11月9日(金)、12月3日(月)「感染症対策・処理方法について」と計4つのテーマ(計5回)で勉強会を実施した。中でも糖尿病の利用者が多く利用されていることから、血糖の管理については、職員間で関心が高く、あらためて基礎知識を学ぶことで利用者への安全な介護に繋がることを再確認した。

ウ 安定的な事業運営

長期で利用されていた利用者が施設入所、入院、体調不良によるキャンセルが止まる事がない中で思うような空床の解消には繋がっていないが、「予約が取れない」というショートステイのイメージを払拭するために、今年度も引き続き、空床状況を定期的に各居宅介護支援事業所に伝えた。

また、家族がサービスを利用したいときに利用できるように緊急依頼にも職員一人ひとりが臨機応変な対応に心掛け、行政からの依頼にも柔軟な対応を行った。

(2) 実績報告（ショートステイ：利用定員20人）

ア 利用実績

緊急新規も含め新規利用者の積極的な受け入れを行ったが、平成29年度の69人に対し51人の契約締結となった。また、廃止利用者も平成29年度の34人に対し46人に増加する形となった。この中には新規利用から定期利用に結び付いた利用者の施設入所による廃止も複数含まれており、利用の定着に結び付かなかったことが利用率の低迷に大きく影響している。

（単位：人）

区分	新規利用者	廃止利用者	利用実人数	利用延べ人数	稼働日数(日)	月毎の利用率(%)
4月	4	2	67	530(※)	30	88.3
5月	6	1	67	495	31	79.8
6月	5	7	59	440	30	73.3
7月	6	5	61	549	31	88.5
8月	5	1	68	597	31	96.3
9月	6	1	63	558	30	93.0
10月	3	4	62	563	31	90.8
11月	1	2	62	526	30	87.7
12月	1	14	56	541	31	87.3
1月	3	5	57	491(※)	31	79.2
2月	3	2	52	439	28	78.4
3月	8	2	62	468	31	75.5
合計	51	46	736	6,197	365	84.9

※ 4月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「2人分」を含む。

※ 1月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「4人分」を含む。

イ 要介護分布表

平成29年度は要支援1,2の利用者が1.8%に対して平成30年度は、3.4%と倍近い増加となった。その反面、平成29年度要介護1～3は65.9%に対して平成30年度は52.4%と13.5ポイント減少となった。8月から開始となった介護保険負担割合3割の影響から利用日数の減少や早期で老健、有料老人ホームなどへ施設入所されることで新規利用から継続しての利用に繋がらなかったことが要因として挙げられる。また、平成29年度要介護4,5は32.3%に対して平成30年度は44.2%と11.9ポイント増加となったものの、利用者の多くは施設入所の待機者であり、今後廃止となる可能性が高い。また、医療的ニーズが高く、体調が安定しない中で利用をキャンセルするケースが多かった。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	4	19	52	115	149	144	45	528
5	4	16	53	88	125	175	34	495
6	4	21	75	63	85	156	36	440
7	8	14	73	81	128	199	46	549
8	6	9	110	109	107	216	40	597
9	4	4	99	113	91	180	67	558
10	3	8	99	63	146	198	46	563
11	9	6	68	120	77	163	83	526
12	4	7	71	100	113	166	80	541
1	9	7	80	95	61	149	86	487
2	9	8	55	83	63	133	88	439
3	9	16	75	104	59	121	84	468
合計	73	135	910	1,134	1,204	2,000	735	6,191
比率	1.2%	2.2%	14.7%	18.3%	19.4%	32.3%	11.9%	100%

5 地域支援課

(1) 重点事項への取組

ア 地域包括支援センター

(ア) 介護保険改正への対応

介護保険改正については、社会保障審議会介護給付費分科会から出される膨大な資料を読み込みつつ、事前にさまざまな研修・説明会等に参加し、制度改正についての理解を深めた。

また、センター内でその情報を共有し、利用者や家族に対し、丁寧な説明と対応に努めた。その結果、大きな混乱やトラブルもなく乗り越えることが出来た。

(イ) 総合相談支援業務の充実

総合相談窓口として、高齢者やその家族が安心した在宅生活を継続できるよう、介護保険サービスだけでなく、調布市の一般施策、民間サービスなど様々なサービスを活用し、支援を行った。

療養相談に対しては、診療報酬改定による影響からか、入院早期の段階からの相談が多く、医療機関と連携し円滑な在宅調整を行った。

多問題ケースや虐待ケース等の困難ケースについては関係者会議等を開催し、市の担当者・関係機関と連携しチームとして支援を行った。

指定介護予防支援事業については、新規の要支援判定者のサービス導入が非常に多かった。

また、介護度が「要支援」から「要介護」へ変更になるケースも多く、利用者が混乱しないよう丁寧な説明を行い、サービスの利用調整を行った。

職員体制では、1人欠員状況が続いたが、地域に精通し相談業務に熟練したスタッフを確保しており、安定した事業の運営ができた。

(ウ) 関係機関との連携強化

年3回の「地域ケア会議」を通し、地域住民、関係機関との意見交換や地域医療機関と福祉関係者で会議を行うことで、医療・福祉の役割分担を明確にしつつ、相互理解を深め、連携の強化を図ることができた。いずれの会議も45人前後の参加者を得ることができた。

地域の支援機関との連携では、調布市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカーとの定期会議により、情報の共有や市民に対する地域活動を協働で行った。

昨年度に引き続き、医療・福祉の連携強化の一環として、調布市医師会や東山病院、多摩川病院、青木病院認知症疾患医療センター等の医療機関主催の連絡会や勉強会に積極的に参加し、交流を深めつつネットワークの強化を図ることができた。

イ 居宅介護支援事業所

(ア) 介護支援専門員の資質の向上

本年度当初から正規職員1人を増員し、介護支援専門員7人体制で事業を行った、10月からは事業所の管理者を主任介護支援専門員の資格を持つ職員に変更し、事業所の体制を整えた。

ケアプラン点検事業については、本年度も継続して取り組んだ。具体的には、事業所の主任介護支援専門員は、調布市が主催するスーパーバイザー研修に参加しつつ、実際に「プレ点検」「点検」「振り返り」などを行い「ケアプランを点検する着眼点や手法」や「気づきを促す手法」などを確認、学ぶ機会を得た。

個々の介護支援専門員については、計画的に施設内外の研修に参加し自己研鑽に努めた。

(イ) 経営の安定

ケアプラン作成数については、1年間を通じて新規ケースや困難ケースを積極的に受け入れ、年間で要介護の方が52人、要支援の方が27人、合計79人の方を受け入れたが同時に入院・登録廃止等も多く、非常に出入りが多かった。

平成29年度と比較して年間作成プラン数は、289件増の1,785件であった。

本年4月の介護保険法の改定で特定事業所加算の要件が変更になり、その対応を行った。具体的には、これまでの要件に加え「他法人が経営する事業所との共同勉強会の開催」と「地域包括支援センター等主催の事例検討会等への参加」の2点が追加になった。

「他法人が経営する事業所との共同勉強会の開催」については、ゆうあい福祉公社、調布医師会、ケア21、狛江ひだまりとちょうふの里の5事業所で共同事例検討会を企画、7月、10月と2月に実施した。

また、「地域包括支援センター等主催の事例検討会等への参加」については、北西部ケアマネットが主催した事例検討会や各地域包括支援センターが主催する地域ケア会議にできるかぎり参加した。

それぞれの要件に適合するように積極的に活動し、本年度も継続して「特定事業所加算Ⅱ」を算定することができた。今後も必要な算定要件を厳守し、質の高いケアマネジメントを提供していく。

収支状況については、正規職員を1人増員したことと作成ケアプラン数が計画どおりに増加出来なかったことが影響し、大きく悪化してしまった。引き続き迅速に新規を受け入れ収支を安定させていく。

(ウ) 地域包括支援センターとの連携強化

新規の介護相談や退院調整にかかる相談については、介護認定の結果が確定していないケースが多く、認定結果が「要支援」・「要介護」どちらになっても対応できるよう併設の地域包括支援センターと協働で対応することが多かった。

また、併設している地域包括支援センター職員と担当ケースについての情報交換を行ったり、相談等を行ったりといろいろな場面で連携・協働して支援を行った。

ウ 訪問介護事業所

(ア) 適切なサービスの提供と経営の安定

適切なサービスを提供するために、体調が変化した時や初回の時等サービス提供責任者が必ず利用者の自宅に訪問し、本人や家族の話を聞き、訪問介護計画書に反映させた。

また、開催されたサービス担当者会議には必ず出席し、利用者ごとの課題や利用者や家族の意向を確認した。

一方、新規利用者を確保するため、事業所PR等を行った。具体的には、ヘルパーの派遣状況を常に確認し、月毎に担当介護支援専門員に提出するモニタリング記録（サービス実施記録）を渡す際に空き状況も併

せて担当介護支援専門員や事業所等に伝えた。

1年間を通じて新規ケースの受け入れや、回数の増加等積極的に調整を図った。しかしながら、利用者の入院・登録廃止等も多かったことと、登録ヘルパーの退職が相次ぎ、新しいヘルパーも確保できず、なかなか総援助時間を増やすことが出来なかった。その結果、大きく目標を下回ってしまった。

(イ) 人材の確保と育成

ハローワーク、法人のホームページ、デイサービス送迎車の掲示等様々な媒体を使って人員の募集を掛けた。

また、市社協が実施している介護職員初任者研修の修了式にも参加し、事業所のPRを行ったが新たな登録ヘルパーを確保することは出来なかった。引き続き、人材確保を最重要課題として取り組んでいく。

人材育成の一環として、ヘルパー研修・会議を企画・実施した。テーマごとに施設内研修にも参加できるようヘルパー会議の日程等を調整しつつ、独自に「感染症予防対策」、「記録のあり方・上手な書き方」、「介護演習（トランス介助・移乗介助・車いす操作）」等を企画、実施した。

また、本年新たな試みでゆうあい福祉公社が主催する「介護カフェ」にも参加した。

(2) 実績報告

ア 地域包括支援センター 区分別相談件数

地域性から「来所」の相談数は非常に少ないが、電話相談後すぐに「訪問」による対応ができることで生活実態の把握がしやすい状況にある。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	145	172	169	148	181	124	177	163	144	157	152	127	1,859	154.9
来所	13	9	17	7	11	11	24	17	6	19	11	5	150	12.5
訪問	61	86	91	100	81	57	113	114	104	87	93	82	1,069	89.1
その他	5	7	32	5	9	7	7	9	8	8	12	2	111	9.3
合計	224	274	309	260	282	199	321	303	262	271	268	216	3,189	265.8

イ 地域包括支援センター 相談内容別件数

「保健医療」の相談については、診療報酬改定「入退院連携加算」の新設により、医療機関から入院時の相談が増えている。

「介護・認知症」相談ケースでは、「経済・住宅問題」も並行して問題を抱えているケースが増え続けている。

また、家庭不和や精神疾患・障害のある家族を抱えるケース等の「家族間

題」については月平均20件程度あり、介護相談は複雑となっている。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
保健医療	106	106	116	94	117	68	135	135	97	107	106	101	1,288	107.3
介護保険	73	42	54	40	59	60	66	78	31	46	45	35	629	52.4
予防給付	46	52	64	58	71	38	74	75	79	73	82	52	764	63.7
総合事業	50	78	74	79	74	36	75	60	65	65	42	49	747	62.3
ケアマネ支援	7	15	12	7	14	13	15	20	11	7	8	9	138	11.5
介護相談	16	13	22	14	19	8	9	18	8	15	21	24	187	15.6
認知症相談	3	8	12	3	9	7	9	13	6	13	11	8	102	8.5
経済・住宅問題	7	13	8	26	15	11	14	24	12	8	9	3	150	12.5
家族問題	18	23	15	17	9	17	19	41	14	18	22	31	244	20.3
権利擁護 (成年後見)	1	1	1	0	1	1	3	3	3	0	0	2	16	1.3
権利擁護 (地権・その他)	2	6	2	1	1	2	7	3	1	1	5	2	33	2.8
その他	35	46	28	50	53	25	59	53	61	49	45	38	542	45.2
合計	364	403	408	389	442	286	485	523	388	402	396	354	4,840	403.3

ウ 地域包括支援センター 調布市一般施策相談件数

「紙おむつの給付について」は利用要件が要介護3以上の方もしくは、医師の意見があるものに代わったことで申請数が大きく減った。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
配食サービス	1	2	7	2	9	4	13	1	13	4	0	3	59	4.9
日常生活用具	0	3	3	0	0	0	10	10	3	3	5	2	39	3.3
おむつの給付・ 助成	9	6	8	4	5	7	12	16	6	8	0	5	86	7.2
緊急通報システ ム	4	6	7	1	2	3	3	6	0	4	5	1	42	3.5
徘徊探知器	2	2	1	0	2	1	2	0	0	1	0	0	11	0.9
その他	3	6	5	3	10	3	8	5	6	4	6	2	61	5.1
合計	19	25	31	10	28	18	48	38	28	24	16	13	298	24.8

エ 地域包括支援センター 実態把握件数

月平均約67.7件の実態把握を行った。新規相談の増加に加え、退院支援や一般施策の相談の増加により、実態把握数は例年より多かった。新規相談に対しては迅速に訪問し、ニーズの確認やサービス調整に必要な実態把握を行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
実態把握	72	82	77	62	64	37	98	66	66	64	69	55	812	67.7

オ 地域包括支援センター 見守りネットワーク 連絡件数

通報は、隣人・知人からが最も多く、次いで民生委員によるものが多い。医療機関からの通報も増え、「みまもっと」PR活動の成果を感じることが出来た。

PR活動として、サロン、老人会、自治会等の住民アプローチを積極的に行った。広報紙を年3回発行し、市民・地域の関係機関に記事の取材・配布をすることでもPR活動を行った。調布中、石原小、アトラス調布での認知症サポーター養成講座や、介護予防体操の住民講座等でも事業のPRをすることができた。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
通報	5	3	10	5	2	4	6	4	3	6	4	1	53	4.4

カ 地域包括支援センター 予防プラン作成数

(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)

予防プランは、新規介護予防支援の導入と並行し、介護給付への移行（居宅介護支援事業所への引き継ぎ）ケースが多く、センター業務の半分近いウエイトを占めている。

福祉用具貸与や訪問看護のサービス併用者は多く、「介護予防支援」のプランが総合事業単体の「介護予防マネジメント」を、若干上回っている。

居宅介護支援事業所への委託率は、併設居宅介護支援事業所の協力を得て介護予防支援41.0%（前年度26.9%）、介護予防ケアマネジメント30.2%（前年度17.1%）となった。

介護予防支援費

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	48	53	52	50	51	50	49	49	54	53	53	58	620	51.7
委託作成	32	35	32	35	38	37	36	37	35	39	38	37	431	35.9
合計	80	88	84	85	89	87	85	86	89	92	91	95	1,051	87.6

(委託率41.0%)

※「介護予防支援」は、総合事業に加え、訪問看護、福祉用具貸与等を利用するプランもしくは、訪問看護、福祉用具貸与のみ利用するプラン

介護予防マネジメント（事業対象者を含む）

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	66	65	70	67	70	64	67	61	59	56	58	53	756	63.0
委託作成	28	29	26	27	24	25	25	24	26	24	24	24	306	25.5
合計	94	94	96	94	94	89	92	85	85	80	82	77	1,062	88.5

(委託率30.2%)

※「介護予防マネジメント」は、総合事業（通所介護、訪問介護）のみ利用するプラン

キ 居宅介護事業所の居宅サービス計画書作成件数

1人介護支援専門員を増員し、積極的な新規の獲得に努めたが、同時に入院するケースや終結ケースも非常に多く、計画どおり増加させることは出来なかった。

昨年度1,496件と比較すると年間1,785件と289件の増加となった。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求 *1	139	140	136	143	147	147	147	150	154	159	158	165	1,785	148.8
請求外相談 *2	3	3	4	4	5	4	1	1	1	2	3	1	32	2.7

※1 予防プランを含む。

※2 請求外相談とは、新規や入院等で介護請求が発生しなかったケース。

ク 居宅介護支援事業の要介護・要支援認定調査件数

認定調査件数は、昨年度の78件と比較して、37件の増となった。

また、調布市民のほかに、市内の有料老人ホーム等に入所をしている市区や他県の方の認定調査も積極的に実施した。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
認定調査	4	9	6	8	11	8	12	9	12	8	16	12	115	9.6

※ 施設認定調査含む

ケ 訪問介護事業の訪問介護派遣状況

訪問介護派遣時間は、1年間を通じて、回数増加や積極的な新規の受け入れ等を行ったが登録廃止も多く追いつかない状況であった。

前年度年間6,233時間と比較すると5,138時間と大きく減少してしまった。

(単位：時間)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
介護保険派遣時間	376	401	369	377	362	340	378	357
障害サービス派遣時間	42	48	41	44	42	39	49	41
介護保険外派遣時間	15	11	12	12	12	12	17	17
訪問介護派遣時間合計	433	460	422	433	416	391	444	415

下段に続く

区分	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
介護保険派遣時間	321	329	311	368	4,289	358
障害サービス派遣時間	44	39	36	44	509	42
介護保険外派遣時間	57	55	77	43	340	28
訪問介護派遣時間合計	422	423	424	455	5,138	428

※ 派遣時間については、分の単位30分以上を切り上げて1時間とし、30分未満は切り下げて計算している。